作成：Bグループ19班　都農マップ

①三日月神社

国道10号線上にある神社で、三日月が描かれた御神体がある。水神様を祀っており、昔、「神社の隣にある橋を渡ると転ぶ」と言われていたらしい。鳥居を渡った先は蜘蛛の巣に覆われており、あまり管理されていないことが伺えた。しかし、御賽銭箱があるところの両脇には榊が置かれており、周りには紙垂が付けられていたため、全く管理されていないわけではなさそうだ。このあたりには他にも貫川神社や智子神社など複数の神社が点在している。これは農業が盛んな都農町で、収穫後の祭りや儀式が昔から盛んに行われるためであるとおっしゃっていた。（太陽農園情報）

②多目的グラウンド

グラウンドは都農町の子供から大人まで幅広い世代の方々がスポーツであったり、誰でも交流を深めることができる素晴らしい土地。地域活性化のために使用できそうだと感じた。

④有明産業

国内唯一の洋樽の製造、販売を行っている樽製造メーカーである。敷地内には大量の樽が置かれてあった。樽の用途は主にワインを熟成することであり、ワインの風味や味わいに大きく影響を及ぼす。使われ今回訪れた太陽農園と直接的な関わりはなかったが、さらなる都農ワインの発展には必要不可欠な存在であると感じた。

⑤移動スーパー

道を歩いていると、移動スーパーとすれ違う機会が何度かあった。移動スーパーは客寄せの音楽を鳴らしながら走行していたが、速いスピードで移動していたため、走行中での購入は難しかった。しかし、昼間でも活発に活動していたことから移動スーパーの需要の高さがうかがえる。何が売られていたのかも気になった。都農町の高齢化率は約40パーセントであり、足腰の弱い方や運転免許を返納した方々は、スーパーへ行く手段がないことが多い。このような課題解決のため、移動スーパーを利用した取り組みも面白そうだと思った。

⑦竹林

歩いていたら道端に竹林があった。だが特に手入れはされていない様だった。とても生い茂っていたため、竹細工など有効な利用方法もあるのでは？

⑧枇杷の木

歩いていたところ、道端に木が生えておりよく見ると枇杷であった。

③ソーラーパネル

2か所に設置されていた。用途は不明だが、「固定価格買取制度に基づく再生可能エネルギー発電事業の認定発電設備」ということと「株式会社Qvou」という会社が関係していることから、個人事業で利用されていると推測する。環境に優しい再生可能エネルギーであるというプラスな面を持つ一方、あまり大きい面積ではないが土地一体の木々を伐採して作っているだろうというマイナスな面も予測できた。これからどんどんソーラーパネルを設置していくとなると影響が大きくなるため考えていく必要があるだろう。

⑥太陽農園

太陽農園ではぶどうの袋がけや収穫などにロボットを導入していた。これにより農業の作業の負担が減り、より効率的に袋がけ、収穫ができるようになるだろう。また、農業の担い手の高齢化により、人手不足に陥っている現状にはロボットによる農業の促進が必須であると感じた。他の農園では小さなロボットだけでなく、大きな重機を使用して農業を営む農園もあるそうだが、その場合は一つの農園が買うには高すぎるため、複数の農園で重機を購入し、互いに貸し借りしながら使用しているとおっしゃっていた。我々が訪れた際、太陽農園の農家の方々は作業の合間にトマトやイチゴ、とうきびや卵などを食べて休憩されていた。この直前の10時ごろにが音楽のようなものが鳴っていたが、農家の方いわく、これは朝早くから作業をする農家のために休憩を促すためのチャイムのようなものであるとおっしゃっていた。休憩がてらに食べたたまごの殻やトマト、イチゴのへたなどはそのまま農地に捨て肥料にしている。そのため、食べた分のゴミが出ることもなく、肥料として使用できるため、一石二鳥の行為であるだろう。太陽農園で育てていたぶどうはワイン用と生食用に分けて育てており、収穫は8月ごろである。我々が訪れた際には「まびく」（摘粒）という作業をしていた。これはたくさん実ったぶどうの実を数個切り落とす作業である。これによりスペースができ、実が大きく、形の良いものとなる。またこの農園ではぶどう栽培の際に使用する用水路に工夫を施し、農地に名貫川の水を引いていることを教えてくれた。（左の上から３番目の写真は用水路の終点）探索している際にはあちらこちらに用水路が通ってあり、農家さんそれぞれが自分の用水路を持っているらしいということを聞いた。どこの水も比較的冷たかった。もともと都農町ではワイン作りに適している土地ではなかったため、例外なく現在の太陽農園の土地もぶどう作りには適していなかった。そのため明治時代にボコボコだった土地に石を敷いて平らにし、その上に土を10cm程度積み上げ、ぶどうを育てられる環境を築いていったという。この並ならぬ努力なくして、現在のような世界に誇れる都農ワインはなかったと言えるだろう。時には、この過程を知らない行政が介入し、土地の適正検査を行うため土を掘り起こしてしまい、結果的に土地を荒らした状態にして立ち去ってしまったという苦労話を聞くこともできた。現在、この辺りではオーストラリアの農園が土地を買ってキウイなどを育てており、外国資本が都農の土地を買っているという都農の現状も発見することができた。日本の土地が外国資本に土地を買われるのも一つの問題であるだろう。

振り返ると今回の都農フィールドワークでの調査は太陽農園さんのご協力のもと行うことができた。農作業の休憩の所をお邪魔させてもらったところ、快く受け入れてくださり、休憩の際に食べられていたとうきびやイチゴを分けてもらい、帰りにはおにぎりを作って持ち帰らせてくれた。太陽農園の人と出会い、非常に充実した実習となった。お昼ご飯も太陽農園の農家の方々と一緒にいただけることになり、普段は経験できないようなことを体験することができた。特に、お米をただ炊飯器で炊くのではなく、木材を斧で割るところからスタートして、窯でお米を炊くまでの過程を体験できたのはすごく良い経験となった。木材を斧で割ることをはじめ、時間の経過とともに入れる薪の量の調節や、蓋が動くのはお米が炊き上がる合図であるということなど、都農の農業に関する事柄以外のできないことや知らないことも教えてくださった。都農に関することでは上記に書いたこと以外にも森林伐採などの環境変化などにより取れていたウニが取れなくなってしまったことや、防風林ができた過程、東国原さんが建てた石碑などを教えてくださった。また、農地がたくさんあることや10時のチャイムが鳴ることなどから農業中心の町であると感じた。農家の方が「学生が自分の地域の発展のために考えてくれているのはうれしい」とおっしゃっていたので、実習して終わりではなく、実習で理解したことをどう活用するか考える必要があると感じた。